

# 大津市立保育園における園外での日常的な自然体験活動の現状と課題

橋詰 初美（社会人コース）

## 1. はじめに

幼い時期に自然に親しみ、心に響く体験をすることは豊かな感性を育み、いのちの尊さや自然と人間のかかわりについての意識を芽生えさせる。またその体験が環境保全のために自ら考え、行動する力を培っていくことにつながると思われる。そこで本課題研究では、幼稚園よりも保育園の方が保育時間が長いため、園外活動を導入する機会が多くあるであろうという判断のもと、「保育園で主に園外を中心にどのような自然体験活動が行われているか」について調査し、現状把握に努め、課題を考察した。

## 2. 調査の対象・方法

調査対象は大津市立保育園、15ヶ所である。直接訪問してインタビューによる調査を行った。

## 3. 調査のまとめと考察

- ① 園外へ出かける頻度は、週に1～2日の園が多いが（64.3%）、0日と回答した園がないことから、14園すべてにおいて、毎週1日以上園外へ出かけていると言える。
- ② 園外へ出かけるねらいは、園児の運動能力の育成を挙げた園が多いが（78.6%）、自然と触れ合う機会を増やすこと（自然に親しむ：57.1%）、自然にふれあうことから感性を育むこと（感性を育む：50.0%）を挙げた園も半数以上あり、運動能力の育成だけでなく、自然体験もねらいとして意識されていると言える。
- ③ 出かけている場所については、多くの園が公園に出かけているが（92.9%）、神社・仏閣（64.3%）、琵琶湖岸（50.0%）を挙げた園も半数以上であった。
- ④ 園外で行っている活動については、遊びを通して木の実・落ち葉、草花、虫（小動物を含む）などの自然にふれる活動を行っている園が多く（ともに85.7%）、また、どてのぼり（71.4%）、や遊具での遊び（64.2%）といった運動能力の育成に関わる活動も半数以上であった。
- ⑤ 保育者が大切にしていることについては自然体験活動において重要な役割をもつ保育者の姿勢・配慮を挙げた園が多く（78.6%）、また子どもの興味や関心を育てることを挙げた園も（71.1%）あった。
- ⑥ 園外に出かけるときの留意点は、安全・危機管理に関することを挙げた園が多く（71.4%）、環境保全に関することを意識している園はあまり多くない（35.7%）。

大津市立保育園の園外での自然体験活動の一般的な像を考察すると、週に1～2日以上、運動能力の育成を主としつつも、自然に親しむこと、感性を育むことをねらいとして公園や神社・仏閣、琵琶湖岸へ出かけ、子どもの興味や関心を育てることを大切にしながら、遊びを通して木の実・落ち葉、草花、虫などの身近な自然にふれる活動を実践していると言える。

## 4. 今後の課題

自然体験活動をより充実させるためには保育者の環境への意識の高まりが大切な要素になる。保育者の環境学習に対するスキルアップや若い保育者の自然体験研修も必要と思われる。

また保育者だけでなく、環境学習に関して知識や経験が豊富な人々を保護者や地域の中から園にむかえ、保育園・家庭・地域が協力して一緒に子どもを育てていくことが望まれる。